

学校長式辞

明治講堂横の高峰桜も新入生を歓迎するかのように満開となり、多数の保護者に見守られながら、ここに令和2年度石川県立七尾高等学校の入学式を挙行できますことは、在校生、教職員一同、この上ない大きな喜びであります。

ただ今入学を許可いたしました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、今日まで、お子様を育ててこられた保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

皆さんの今日の感激は、偏にこれまでの皆さん自身の努力に依るものではありますが、皆さんを支え、励まし、指導して下さった保護者の皆様や仲間、先生方から賜ったものでもあります。今日の感激と共に、感謝の心を常に持ち続けていて下さい。

皆さんが入学したこの七尾高校は、明治32年に石川県第三尋常中学校として創立し、今年、121年目を迎える県下有数の伝統校であります。

本校は、「至誠 剛健 敢為」という校訓、すなわち、「誠実であること、心身ともにタフであること、果敢に挑戦すること」を旨として、これまでに卒業生約二万八千人が、多感な青春時代を学業や部活動等に励み、七高精神の伝統を築き上げ、社会の発展に多大なる貢献をしてこられました。

平成16年度には、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受け、科学技術系人材の育成に係る研究開発を推進すると共に、平成24年には石川県教育委員会より「いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）」に指定され、「グローバル社会で活躍できる人材の育成」にも努めています。

近年は、学科やコースを超えた探究学習に取り組み、その成果を、多数の生徒が全国総合文化祭などで発表するなど、高い評価を頂いております。

部活動は、運動部、文化部ともに、学業との両立を図りながら成果を上げており、過去には、全国高校総体で、ボート部の優勝や、男子バスケットボール部の準優勝など輝かしい歴史があります。また、生徒会活動も活発です。特に、学校最大の行事である七高祭は、生徒主体で企画運営がされ、昨年度は、全生徒、教職員で人文字を作り、上空からドローンで撮影するなどユニークな取組もあり、七高生としての一体感や満足感を大いに高めました。

新入生の皆さんには、こうした輝かしい伝統や校風の継承と新たな未来の創造を期待します。

本校は、能登全域、石川県北部の幅広い地域の中学校から、志の高い生徒が集います。中学校時代はライバルでも、今日からは仲間です。どうか、友情を深め、切磋琢磨しながら、充実した高校生活を送り、3年間の「学び」を通して、新しい歴史を作り上げていってください。

今、世界全体に、新型コロナウイルスの感染が広がり、パンデミック、世界的大流行状態となり、収束が見通せない状況にあります。また、地球温暖化、異常気象、貧困や差別の問題など、個人や特定の国家や組織の力では解決できない課題に直面しています。

本校では、探究学習、すなわち、課題を発見し、仮説を立て、情報を収集し、解決策を考え、発表する学習を行います。こうした学習は、社会の課題解決に何らかの形で必ず役立つものであり、大学進学や将来のキャリア形成など進路選択にもつながるものと思います。

古代ギリシアの哲学者ソクラテスは、「無知の知」、すなわち、自分が無知であることを自覚するがゆえに、知を求めるのだ、と言ったそうです。皆さんには、謙虚な姿勢で学ぶことを通して、社会に貢献できる分野や方法を模索しながら、人格形成に努めて欲しいと強く願います。

最後になりましたが、保護者の皆様にお問い合わせ申し上げます。

私たち教職員は、皆様方の大切なお子様をお預かりし、ご期待に沿えるよう、全力で指導させていただきます。しかしながら、新型コロナウイルスの感染を防ぎ、お子様の命と健康を守るため、県立学校は、明日から、5月1日まで臨時休校となります。何卒、趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さんは、休校期間中は、不要不急の外出を控え、感染防止に努めるとともに、5月7日予定の学校再開に備えて、七高生としての自覚を持ち、課題学習や読書、適度な運動による体力の維持にも取り組んでください。再開後は、元気で登校してくれることを願っています。

皆さんの高校三年間が、充実したものとなるよう心から願い、式辞といたします。

令和2年4月8日

石川県立七尾高等学校
校長 山口 和人